

富士岡のいちよう地蔵

昭和六十年七月五日号

富士岡の地蔵堂ぢざうどうの後ろに、乳房ちちのうらが垂れたよ
うな大いちようがあるので、ここのお地蔵さ
んのことを「いちよう地蔵」と呼んでいます。
いちようの木は、樹齢六百年以上だといわれ、
静岡県の天然記念物に指定されています。七
月二十三日は、お地蔵さんの縁日です。

子育て地蔵さん

昔、赤洲川あかすまがわに山津波やまつなみがあつて、一軒の民家
が矢のように流されてきました。ところが、
不思議なことにこの大いちようのところまで
来ると、枝にからまってピタリととまりまし
た。流れて来た家の屋根の上には、乳飲ちのちみ兒



を抱えた田親がしがみついていた。近所の人々がかけつけて助け出しましたが、母親は驚いたために乳房からは一滴の乳も出なくなっていました。子供は火のついたように泣き、母親はただ途方にくれるだけでした。その時、いちようの木の乳房に気がついた母親は、言い伝えが本当であつてくれるようにと祈りながら、いちようの木の乳房に針を刺してみました。すると、その晩から流れるように乳が出るようになりました。

やがて、成人したその時の子供は子育ていちようのご神体として、石のお地藏さんをいちようの木の根元にまつりました。

大勢知ってるよ

清水千秋君（吉永第一小四年）

吉永第一小学校四年生の清水千秋君は、いちよう地藏の大いちようを見事にかきました。清水君は「お地藏さんの話は、お田さんから聞きました。友達も大勢知っています。葉が多いのでかくのに苦労しました」と語ってくれました。



清水君のかいた大いちよう